

寄居町地域おこし協力隊の活動を報告します！

☎ 商工観光課 ☎ 581・2121内線452

大田隊員の活動報告

空き家・空き店舗物件の情報収集、他市町村視察、移住相談、イベントの開催、中心市街地ワークショップへの参加等、移住相談者の増加と、空き家・空き店舗の利活用を促進するための活動に取り組みました。

協力隊 SNS



Instagram



Facebook



中心市街地の賑わい創出交流広場整備のワークショップに参加し、広場のコンセプトや機能について地域住民の方と意見を交わしました。



空き家・空き店舗の情報収集を行い、今後どのように有効活用するか計画を立てています。



寄居駅南口のGOOD PARKでイベントを開催しました。多くの方にご参加いただき、賑わいを感じるイベントとなりました。



廃棄される「摘果みかん」を地域資源として活用するために、商品開発の試作を行いました。

地域おこしに
日々奔走！
寄居町を
盛り上げていきたい



大田 幸子 隊員

「地域おこし協力隊として活動を開始し、早7カ月が経ちましたが、驚くほど充実した日々を過ごしています。空き家・空き店舗物件の情報収集や、移住希望者への町案内、イベントの開催、商品開発など、目まぐるしい活動の中で、寄居町内外でさまざまな交流の輪が広がり、皆さんのアドバイスやご協力をいただいたおかげで、今後の活動の方向性が固まりつつあります。協力隊員としての「やりたい事」の実現が、結果として地域を面白く、そして魅力的なものにする要素の一つとなり、そうした動きが増えていくきっかけになればと思っています。大変な状況の中、気持ちが沈みがちになりますが、寄居町には強く前向きで明るい気持ちを持った方が多いと感じていますので、一緒に町を盛り上げていきたいと考えています。令和3年度もよろしくお願ひします。

男衾サッカークラブが県大会出場！

埼玉県サッカー少年団中央大会

1月17日から2月7日に開催された県大会に、男衾サッカークラブスポーツ少年団が出場しました。キャプテンの菊池俊輝さん(男衾小6年)は「残念ながら1回戦敗退でした。悔しい気持ちでいっぱいです。チームのみんなも同じ気持ちです。この悔しい気持ちを忘れず、今後も一生懸命頑張っていきます」と話してくれました。



自主防犯活動団体に感謝状！

地域での防犯活動の推進が評価

本村防犯パトロール隊(本村区自主防犯活動団体)に、埼玉県防犯のまちづくり推進会議会長(大野元裕埼玉県知事)から、感謝状が贈呈されました。子どもたちの安全のため、登下校時に合わせた見守り活動や地域の防犯活動等に年間を通して積極的に取り組んできたことが評価されました。野邊高一代表は「今後も子どもたちと地域の安全のために活動を続けていきます」と話してくれました。



寄居町の 民話とは何ぞや?

最終回

雁鐘淵の河童

荒川にかけられた八高線の上流に、雁鐘とよばれる淵があり、ここには河童がすんでいるといわれています。

ある日、酒をのんで、ほろ酔いになった男のひとがこの淵をとおりにかかるところ、河童につかまり、いくらもがいても離れなくなってしまう。からだはぬるぬるし、そのうち、だんだん淵のちかくへ引きこまれていきました。そのとき、男のひとはふとこんなことを思いました。河童はあたまたに猪口があり、陸にあがるときは猪口に水をいれるということ。そして、猪口の水がなくなると、体力がなくなってしまうこと。そんなときには、河童はいそいで川にとびこんで、猪口に水をいれてくるということ。そこで、そのひとは夢中で河童のあたまをなぐってみました。すると、猪口の水がこぼれてなくなり、河童はあわててその男のひとを放すと、川のなかへ飛びこみました。男のひとはそのあいだに夢中で逃げかえったということです。



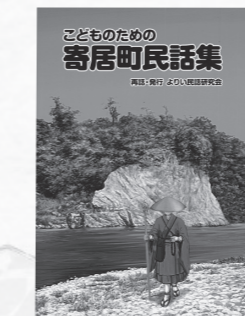
河童に引き込まれた話

むかし、末野のあるひとが盆休みの十六日というのに、荒川へ投網を打ちにゆき、川に引きこまれて死んでしまいました。人々は河童のせいだとうわさしあつた。というのもそのひとの顔が、ニッコリ笑っていたからだ。河童はひとを引きこむとき、かならずおしりをくすぐるものなのです。

出典「こどものための寄居町民話集」

あとがき

「寄居町の民話とは何ぞや」をよりの民話研究会(久代恵美子代表)のご協力により、1年間広報よりいに掲載することができました。この間、町民の皆さんにはご感想やご意見等いただき大変ありがとうございました。



☎ 生涯学習課 ☎ 581・2121内線531